

卵巣漿液性癌の臨床病理学的特性と予後に関する多施設共同後方視的研究

1. 研究の対象

1984年3月から2018年12月までの間に、本研究参加施設で卵巣漿液性癌と診断された患者を対象とします。

2. 研究目的・方法

卵巣癌において最も頻度の高い漿液性癌は、約70%がステージIII、IVの進行期で診断されるが、その多くは初回の手術と抗がん剤がよく効くことが多いです。しかし、その長期的な予後は不良で、約半数は再発して抗がん剤が効きにくくなり、治療が難しくなっていきます。近年では卵巣癌に対する新たな治療薬として、分子標的薬という従来の抗がん剤とは異なるメカニズムで効果を発揮する薬が出てきており、新しい治療の選択肢が増えてきています。しかし、卵巣漿液性癌は高異型度漿液性癌と低異型度漿液性癌に分類されますが、低異型度漿液性癌の頻度は極めて低いにも関わらず、両者ともに行われる治療は同じで、個別化は進んでいません。

以上のように、卵巣漿液性癌の治療において、未だ解決されていない問題点が多々あります。この研究の目的は、当院での症例に加えて、他の病院で診断・治療が行われた漿液性癌患者の臨床経過および病理学的な再検討を行うことで、漿液性癌の治療に関する新たな知見を得ることです。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

すべての情報、試料については匿名化して利用しますので、個人が特定されるような情報は一切公表しません。

情報：術式、病理学的診断、治療経過、予後

資料：組織プレパラート

4. 外部への試料・情報の提供

本研究では、上記診療情報と組織プレパラートを匿名化（研究登録番号を付与）して研究協力施設より当院に送付、集積します。名前や住所など個人が特定される情報の集積はいたしません。個人が特定されるような情報は一切公表しません。個人情報保護においても厳重に管理され実施されます。

5. 研究組織

研究参加施設

- ・ 西埼玉中央病院 産婦人科 提供担当者名（責任者） 石井 賢治
- ・ 多摩北部医療センター 婦人科 提供担当者名（責任者） 工藤 一弥
- ・ 奈良県総合医療センター 婦人科 提供担当者（責任者） 喜多 恒和

6. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

防衛医科大学校産科婦人科学講座 講師 宮本 守員

住所：〒359-8513 埼玉県所沢市並木3-2 防衛医科大学校産科婦人科講座

電話：0429-95-1511

研究責任者：

防衛医科大学校産科婦人科学講座 講師 宮本 守員

研究代表者：

防衛医科大学校産科婦人科学講座 講師 宮本 守員